

新しい革伐衣

二〇一四年二月号

手束正昭牧師 召天記念特別号

高砂教会 主任牧師 新谷和茂

今月の月報は、故手束先生追悼号としてお届けします。いつかこの日が来るとは分かっていましたが、実際にその日が来ると、やはりボッカリ空洞ができた感じです。一年ハケ月近く臥せつて教会に来れなくなつていました。それでも存命であられるのか、それとも亡くなつておられるかでは全く違うと感じています。しかし事実は「手束先生は亡くなられた」のです。

さて、告別式で私が説教をさせて頂いたのですが、思いもかけず、多くの人から「説教、良かつたですよ」「励まされました」「感動しました」とのもつたいない言葉をかけて頂きました。そんなこともあり、今月の巻頭言ではその時の説教を短くまとめて文章にしたいと思います。
手束先生には多くの切り口があります。ビジョンの人、現場で聖靈神学を実行する人、初心貫徹の人、決断と行動の人、習慣の人、高砂教会を自分の身体のように愛していた人などなど沢山挙げることができます。「ここでは「手束先生は聖靈の可能性を体現した人」という切り口を取り上げたいと思います。

手束先生は一九七五年、夏の修養会で聖靈降臨体験をするまでは、典型的な日本キリスト教団の社会派牧師でありました。しかし聖靈体験をして

からカリスマ信仰に転身し、牧師人生が完全に変革されました。まさに「聖靈による可能性を体現した」先生です。

二〇一五年に私は手束先生から主任牧師を引き継ぎました。もう八年が過ぎました。性格の違い、やり方の違いなどで、納得できなかつたり、反対されたことも案外多く、面倒くさいなうといふこともあります。“いいかげん、僕の提案を応援してくれへんかな”応援してほしいなう”といふこともよくありました。しかし、そのような経験のお陰で私自身も更に練られ成長できる時でもあったと思います。手束先生は高砂教会のことを思い、また、主任牧師となつた私が失敗することのないようなど、そういう形で応援してくれていたのだと思います。

手束先生が召天される一日前、私達夫婦とスタッフ達は先生に面会するチャンスを頂きました。先生を囲んで賛美し祈り、礼拝を捧げました。それから、私はこう言いました。「先生と出会つてから四十三年になります。十八歳の時に教会にきて、もう六十一歳です。本当に長いお付き合いですね。育てていただきありがとうございました。教会のこと、僕に任せにくいでしようけど、任せといてください！」この言葉を先生はにこやかな笑顔で受け取つて下さったのです。

この葬儀に参列して下さつている多くの牧師先生方は、手束先生を亡くした寂しさを感じながらも、同時に、心の隅っこで“高砂教会、これから大丈夫か…。新谷先生、大丈夫か。主任牧師として独り立ちになるで。大丈夫か。頑張れよ！”

と思っているんじゃないでしょうか。（会場笑い）。今笑つた人はそう思つてますね。（再び会場笑い）。八年前の主任牧師就任式で、関西聖書学院の大田先生から「新谷先生、『ご愁傷様です』との励ましを頂きました。そうです。手束先生と私はそれほどに規格違いなのです。それは分かっています。しかし逆に“だからそれがどうした！”と開き直つているところもあります。

神様に用いられた聖書の登場人物で、イエス様以外に完全無欠の人間がいたでしょうか。誰もいません。彼らは多くの欠けがあるまで神様に用いられました。それが手束先生が言う「聖靈による可能性の宗教としてのキリスト教」ということではないでしょうか。

勿論、用いられる舞台や働きの大きさは違います。それでも聖靈はそれぞの器の大きさに従つて可能性を開いてくださいぬのです。大事なのは、主の召しに忠実でありつづけることです。

私がよく祈る言葉で、また、大切にしている信条があります。それは「いつも、どこでも、なんでも、いかようにでも、神様の好きなように私を使ってください結構です」ということです。未だ完璧にその通りになつていませんが、この祈りと献身をこれからも大事にして主と高砂教会に仕えていきたいと思っています。規格違いの私でも「聖靈の可能性」でそれなりに用いられることを願っています。そしてみなさんひとり一人も同じです。器の大きさは違つても、“この器の中に聖靈の宝を持っている”のです。そして人生の戦いは、聖靈による可能性を体験していく戦いなのです。

さあ、立ち上がり前を向きましょう。私達には取るべき魂がまだまだ残つています。

弔辭

元カネボウ特別顧問 大門 英樹

手束牧師、あなたは「土の魂とキリスト信仰」とが渾然としている希有の人物でした。かつて、内村鑑三は「武士道にキリスト教を接ぎ木したキリスト教」が世界に通じる最も良きキリスト教であると述べたことがありました。そのキリスト教とはほぼ同じ信仰を、あなたは帶した人がありました。「いさぎよわ」と「誠実さ」と「武士の情」と「ストイックさ」を具えた信仰の器でした。

やれりに、あなたは「向ひつて光がある」「いにしへも光が輝いて居る」と指さずのではなく、自らが光となつて周りを照らす人でした。以前私はある俳句作家の一句を提示して、あなたの風姿を論じたことがあります。その俳句は「夕菊のまとうは己が光のみ」というもので、自らが「光」となつて説教や執筆や伝道に励しむあなたの姿は、いつも尊いものがありました。

手束牧師、私は「死」が私どもとあなたを隔てたとは思つていません。あなたは、永遠というきわまりのない世界に入って、その魂は私どものまわりに満ち満ちています。ただ一つ残念に思うのは、あなたにはもう会えないとこつことです。おじいに寂しい限りです。

あなたは、すぐれた叡智の他に、並はずれた多量

の愛と感謝の念を與えていました。
手束牧師、数々の「教示ありがとうございました。永遠の光の国から、これまでと変わらぬご指導のほどお願い申し上げます。

無限の感謝を込めつつ。ひとまずお別れいたしま

す。

四宮 忠明

手束先生、今、私は悲しみの思いで一杯に包まれています。

先生との最初の出会いは新会堂の頃でした。洗礼を受けた家内が聖日礼拝に出席するための運転手をしていた私が、家内の度重なる誘いで初めて礼拝に参加した時でした。四十年前のことでした。二十数名の礼拝であったと記憶しています。

その後、新会堂が竣工し、家内が教会から離れていた時期を挟んで、再度礼拝に行くようになり、相変わらず私は運転手をしていました。丁度その頃、世間を騒がせた耐震偽装事件があり、仕事の関係上その影響を強く受け、胃の痛い日々を過ごしていました。しかし不思議と聖堂に入ると胃の不快感が消え去ることを体験したのです。

その日、家内は旅行で不在でしたが、私は胃の調子が悪く、聖堂ですつきりしたいと思い立ち、一人で礼拝に行きました。思った通り不快感は直ぐに消えました。と同時に、聖堂の中は空気が全く異なっていました。と同時に、聖堂の中は空気が全く異なっていました。と同時に、聖堂の中は空気が全く異なっていました。

ですが、手束先生が毎日のように熱心に聖別の祈りをされ、聖堂の中は清められた空間になっていたからなのだと。

この日、聖餐式がありました。北村兄弟の促しも与りました。礼拝後、例によつて聖堂の入り口で手束先生と握手したわけですが、すかさず告げられました「来月のペントステの日に洗礼ですよ。」「えつ、ええ?」これが私の受洗のいきさつです。先生の押しの強さで救いに導いて戴きました。最初のお出会いから実に二十年余りかかった受洗でした。感謝です。

それからはこんな私を先生は良く用いて下さいましたね。受洗した1906年、教会では新会堂竣工二十周年記念事業として大規模改修、続いて現研修センターの取得改修と駐車場整備の案件がありました。当時の教会の経済力の視点から難しいといつ懐疑論が多い中で、先生は「大丈夫、やりましょ!」と決断されました。その結果として全てが過不足無く整備を終えました。「判断の素晴らしさ」と、主の御業を実感させていただきました。

先生は何事も、「主」祈り、「主」と意見を交わし、決断されていました。それ故に「主」が援軍を遣わしてくださるなどということを知りました。日本民族総福音化を始め、先生の構想は壮大です。高砂教会のある街区を教会ゾーンとする将来像を描いておられたのだと思います。だから1910年の時のチャンスを逃すこと無く、主に祈り、決断されていました。先日の特別祈祷会で、アンドリュー先生と恵満先

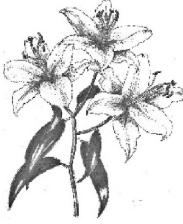
生きから分かり易く、「手束先生の思いを十分に」理解して、主の御心に祈つて参りましょう。」と導いて

戴きました。導きに従つて理解し祈りました。自分の赦しも祈りました。弔問日に先生のほんとに平安なお姿に接することができました。全てを主に委ねられた神聖なお姿に心から感動しました。

手束先生。私たちが、この冒頭で発言した悲しみの思いを乗り越えることは容易ではありませんが、必ずイエス様が乗り越えさせて下さると信じます。これからは何時も、瞼を閉じれば、いえ、眼を開けていても、講壇の上に先生のお姿を見ることがであります。勿論その右にはイエス様があられます。私にはイエス様の御顔はクリアではありません。御顔を存じないからです。でも先生の御顔ははっきりと見ることができます。その優しい、優しい眼差しを。

残された私たちが、新谷先生他、スタッフ、勤士執事の皆様のご指導の元に、日本民族総福音化運動、教勢の拡大等々、手束先生の思いをしつかりと引き継いで行けるように貢守つて下さい。まさに先生が自叙伝に記された「逆境の恩寵」となりますように、天からイエス様と共に援軍を送つて下さいますように。

手束先生！ 有り難うございます。 最大の感謝を捧げます。



北村 恵

ねじりました。十字架の勝利の信仰との出会いでした。生きて働かれる聖靈様の素晴らしさ、聖靈信仰の醍醐味を体験させて貰ったのです。

神さまを第一にして畏れあがめなさい。その表明として朝一番に大切な方である神さまの前に出て祈るのです。神さまを畏れあがめるという力強い信仰こそ今の日本の教会に日本人に必要なことだとなく教会全体に聖靈を注がれたのですか」と、尋ねたことがあります。その時、「私のこの宣言を神さまは喜ばれ、教会に聖靈を注ぐ聖靈のダイナミックな信仰を告げ知らせる拠点地として選ばれたのだろ」と言われました。それから、カリストマ運動とか非かの壯絶な戦いが起じり、美智子先生の笑顔と明るい歌声に支えられみことに乗り越えていかれました。

四十年前、私の夫の会社が一億円の借金を抱えて倒産寸前のかけっぴ方に立っていたとき、新会堂建設の奉獻式で神さまから示された金額は私にとってなけなしの額でした。「神さまの宮を建てる時、神さまは、必ず報いて下さるから期待を持って捧げぬですよ」と、神さまの祝福を確信し、祈つてくださいました。その時の手束先生の教えが私の人生を変えました。イエス様に祈る事、サタンのもたらす不安や恐怖にうち勝つ信仰を教えて貰ったのです。「イエス様の十字架と復活は、罪の赦しばかりでなく、病や、この世の悪、先祖から受け継いだ呪いをも断ち切り、人生の悩み苦しみを打ち砕く勝利である。十字架の勝利を振りかざして祈りなさい」と。そしてみごと借金を返済し会社を整理す

るにこぎりました。これまでの苦難や試練は練り清められたための神の恩寵であったと、感動の書、「恩寵燐々と」を著されました。こんなにも神さまから与えられた使命に忠実に、命がけで戦い抜かれた手束先生。フレイルに倒れ息苦しい中にあっても、すべては神の愛だと、何事にも感謝を忘れない毎日を過ごされたと聞きます。『自身をヨシュアとして、生涯戦い抜かれた手束先生、本当におみじ』でした！あっぱれ！です。魂を振り絞って語られたメッセージ、私達を感じ動の渦に巻き込み、神さまの生きて働く眞実を見せて貰ったこと、神さまへの畏敬の念を持ち忠実に従われた姿、私達は決して忘れる事はありません。手束先生に教えを受け訓練されたことを誇りしく思います。

一月七日の朝、わたしは不思議な夢を見ました。大勢の人々が集まっています。今から婚宴が始まるのです。遙か彼方に花婿が待っています。私の実の父親です。どうして父親と結婚するの？ところが婚

礼衣装のベールがない、結婚指輪がない、どうしようと震え慌てているという夢でした。目が覚めたら

き、あつ一結婚式は天のお父様との結婚式だ。イエス様は両手を広げて待つておられる。誰を? 手束先生を! そこには悲しみも寂しさもなくイエス様のにこやかな笑顔が見えました。私達には婚礼衣装のベールが必要だ! そのベールとは聖靈様だと直感しました。結婚指輪は? それは靈の一致だ。そうだ今こそ私達は、聖靈をまとい、心を一つにして祈り元老先生を送り出すのだと。その夢の「」と祈祷会には大勢の兄弟姉妹が聖堂に集い聖靈様の導きの元心を合わせて元老牧師先生のために祈りました。元老先生が最後に私達に残された言葉、「高砂教会のリバイバルは日本のリバイバルの先駆けである」を回憶して私達はつかにおられる聖靈様とともにみんなで心を合わせ一つとなつて祈ります。家族に友人知人にイエス様の救い、生きて働く聖靈様の素晴らしい十字架の勝利の絶大な力を伝えています。手束先生、本当に本当にありがとうございました。私達も神さまと手束先生に「忠実な僕よ よくやつた」と迎えて頂けるよう日本のリバイバルのため励んで参ります。イエス様とともに見守つていてくださいね。

松本 美和

手束先生、七十九年に渡る、凝縮された人生を走

り抜かれ、本当に疲れ様でした。

しばらく前、先生「」不在の勧士執事会で、「キリスト教の第三の波」を熟読するという課題が与えられ、繰り返して読む中で驚きが新たにされました。先生は、これを三十代の頃に、月報として書き綴っていましたのです。学生時代の研究が基にあったとは言え、なんと豊かな知識と洞察力、文章力のすばらしさ。この聖靈による信仰によって私たちの群れが養われてきたことは、大きな恵みです。特に青年時代の、生きた聖靈の働きを次々と体験したあの日々は、私の宝です。

私は、高砂教会に聖靈降臨があった明くる年に導かれ、説教の中で何度も力説されていた聖靈についてもつと知りたくて受洗し、以来多くの聖靈の恵みに恵まれました。

先生はいつも、先見の明により遠い先を見据えておられましたね。だから、先生の言わることは私たちには想像できなくて、時には爆弾宣言のように聞こえ、どれほど何度も驚かされたことでしょう。教会が、まだカリスマ運動による分裂の痛みを抱えたままの小さな群れであった時のこと。「大通りに面した所に堂々と新会堂を建てよう!」と宣言されたのには驚きました。あまりのヴィジョンの大きさと、現実の惨めさとのギャップに唖然としました。しかし、先生は、神様の啓示を受け取つたら掴んで離さない執念の人。美智子先生は幼い三児の子育て真最中でしたが、旧会堂の小さな応接間で細々と早天祈祷から始まり、私は朝出勤前に立ち寄つて、まだ見ぬ事実を確認しながら共に祈り続け、不可能と

思える会堂建設の道を一步一步奇跡的に開いてくださる神様の御業に喜びと感動を味わいました。けれども、多くの試練も通らされ、悲しみ、挫折、落胆も経験しました。そんな中で先生は励まして下さいましたね。「神様はこの試練を通して、教会堂だけではなく私たちの信仰も建て上げて下さるのだよ」と。先生「」自身も通りた十字架の道。痛みと苦しみの中で私たちの信仰も練られ、やがて神様のお言葉が成就して、「」に立派な新会堂の姿を見た時の喜びはひとしおでした。

新会堂に移つてからは早送りのようなスピードの日々でしたね。靈的戦いから始まり、教会のヴィジョンを掲げてまっしづら。わき田も振らないスピードで、付いて行くのがやっとでした。そのような折、また忘れられない爆弾宣言! 韓国のソウル聖歌大合唱祭に高砂教会から百人の隊を組んで出場するというもの。しかもお琴の伴奏によって。私はどんなに顔をしかめたことでしょう。レベルの高い韓国の中でも選り抜きの聖歌隊が出場するところの場に、かたや私たちは素人の集団、猫も杓子も人を集めないといけないところからこの大事が始まり、先生の期待に応えるべく猛練習を重ね、二年越しで幻が現実となりました。大きなステージに立ち、予想もしていなかつた喝采の中で、ただ聖靈の助けにより成し得た喜びをかみしめ、韓国の方々との熱い交流を喜び合いました。

先生の爆弾宣言は数え切れませんが、これによつて私たちは、現実を見ないでみ言葉に立つこと、不可能を可能にする聖靈の力に依り頼み、忍耐強く祈

り続けることを何度も教えられました。

先生が築いてくださった教会の礎の上に、これらも私たちは聖靈と共に歩み続けます。

自称「嵐を呼ぶ男」、「転んでもただでは起きない鉄人二十八号」。先生のこの生涯は、激しい向かい風、荒波の中を、それでも屈しない大和魂をもつて、全力で駆け抜かれたこの生涯となりました。五十年に渡る数々の大仕事を終えられ、このコベルの年、すべてのことから解放されて、どうも主の下でじゅうぶつと安らいでください。先生の著書の中でもお会いできますね。共に歩ませて頂いた日々に、心から感謝致します。あらがとうございました。

手束牧師先生を偲んで

伊藤 信義

— その時々の訓練により育てられ —

私が手束先生を心に留めるきっかけとなつたのが、妻の入院でした。ある時、伝道旅行の帰路途上にもかかわらず、病院に直行してお見舞いに来て下さいました。妻はもちらんの事、看病中の私の健康をも覚えて祈つて下さった事が、昨日のように思い起こされます。

そして、私が手束先生と一緒にお話をさせていただけになつたのは、「ベテル聖書研究」を受講することになつてからでした。講義の時間では、ユーモアを交えた話に加えて、講義の内容や状況に応じてよくナツメロを歌わっていました。私とは同じ年代層なのですが、いろんな歌を「存じて、その記憶力にただただ驚かされた印象があります。厳しくも楽しく学ばせていただいた時間でした。受講期間は二年間でした。信仰生活を続ける限り、しつかりキリスト教（聖書）の基礎の学びに専念しようと心に決めていたのですが、ベテル聖研の一年目が終わった春に、執事を拝命しました。大変な事になつてしまつたと頭の中が真っ白になつた記憶があります。

月一回の定例勤士・執事会では、手束先生より「伊藤兄弟と〇〇姉妹と祈つて下せ」と、よくお祈りの役目が与えられました。その時は「えつーまた私ですか」と心中でつぶやいていました。「神様は愛する者を訓練される」と聖書にあります。その時は新米の執事の私には考えが及びませんでした。今は、目をかけて訓練していただいた事に感謝です。

手束先生とは卓球での長いお付き合いがあります。教会のクラブ活動として「カナン会」（卓球の会）があり、手束先生が顧問を務めておられ、年一回「手束牧師杯」を開催しております。手束先生は、デスクワークが中心なので、身体を動かす事に心がけておられましたが、球を追いかけ合っている時は、執務から解放されてリフレッシュされておられる時などお見受けしていました。年末には、コロナ禍であった時も、お呼びがかかり共にプレーした事が思い出されます。やはり卓球がお好きだったんだなと思います。手束先生の川柳を一句「牧師にもレイハイ（零敗）捧げる カナン会」（二〇二一年度教会川柳より）

手束先生は聖靈降臨を体験されてから、カリスマ信仰に転じられました。手束先生は藏書の中に、「聖靈降臨」の白黒の挿絵（ドレの聖靈降臨祭）を見つけられ、私に「この絵を大きなサイズにして色を付けて欲しいんだが」と話されました。素人の私でいいのだろうかと戸惑いましたが、手束先生の熱い力リスマ信仰のお役に立てればと思つ、「トライしてみます」とお答えしました。手束先生は忍耐と寛容な心を持って飾つて下せられました。

私にとって忘れない手束先生との大きな思い出として、二〇一二年の「手束主任牧師 牧会四十周年記念祝賀行事」（イスラエル聖地旅行含む）そして引き続き二〇一五年の「手束元老牧師推戴式典」行事に委員長として奉仕させていただいた事です。正直、この様な式典行事に携わった経験がなかったので、「手束先生、私はこの様な経験がないので何をどうのこうに進めればよいのかよく分からぬいのですが」と話しますと、手束先生は「創立百周年祝賀行事の時のビテオを観たら参考になるよ」との一言でした。委員会を組織して、月一回の会議を三十八回重ねました。手束先生のアドバイスを思い返す時、企業の経営者のような発想を持っておられたのを感じました。行事（事業運営）の進め方、成

的な判断をされたおられたのを感じました。私はこの奉仕を通して貴重な体験をさせていただき、多くのことを学ばせていただきました。

未熟な私を、忍耐をもって今日まで導き育てて下さった事に心より感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

— ベテル聖書研究により変えられた —

松本 明子

手束元老牧師先生との最初の思い出は、私が高校生、手束先生が大学生の時でした。関学神学部主宰の高校生のためのセミナーが千刈キャンプ場で二泊三日で開かれた時、当時、松蔭女学院の宗教部から数人で参加しました。

私の振り分けられたグループのリーダーとして来られたのが神学生の手束先生でした。多くの方が感じられるように、「神経質そうな方だなあ」というのが第一印象でした。今もそうですが、当時から「イケメン大好き」な私としては、一緒に参加した友人のグループのリーダーとなられた神学生に「一眼惚れ」して、キャンプの終了時には、聖書の裏表紙にサインを書いてもらつたのが今も残っています。

“色の黒いやつがいいわよ「いつも千刈を思い出せ」〇〇”

せん。(笑)

その後、十年ほど経った一九七五年に私が夫の転勤で播磨町の社宅に転居したことを、学生時代のクリスチャン・ワークキャンプ仲間であった山内牧子

姉にお知らせしたことから、手束先生の訪問を受け、高砂教会に導かれることになりました。そのときは「ヨルダンの河、渡りつ」「高砂教会百年史」に掲載されていますので、興味のある方は、お読みくださいますが、まさに手束先生の真骨頂たる強引きによって、高砂教会へと導かれることとなりました。これも信仰から離れてしまつた私に対する神様の「配慮だったと思わされました。そして、もう一度信仰を立て直すために、ベテル聖書研究の一年間の学びが、私には必要なものだつたと思います。手束先生から指導を受けたこの二年間の学びは、私の人間中心のものから、神様中心の信仰へと造り変えてくれました。

手束先生と出会いわせてください、高砂教会へ導かれて、四十八年間、神様は素晴らしい恵みをもつて祝福してくださつていらっしゃるのことを心より感謝します。ハレルヤ!

— 「手束マインド」を胸に —

中谷 紗子

の愛にあふれていた手束先生との思い出をみなさんにお分かちできるのを心から感謝します。

一九九五年三月、当時まだ高校生であられた花＊花のこじまいづみさん率いる高校生バンドが高砂教会で一世を風靡していた頃、私は牧師先生(※以下、いつもどおり親しみを込めて「牧師先生」と呼ばせていただきます)に洗礼を授けていただき、クリスチャンになりました。高校一年生の終わりの頃でした。歌うことや音楽が大好きだった私は、当時高校生の河辺真美姉とともにバンドチームを結成し、礼拝や教会イベントの様々な場面で賛美する機会を与えていただきました。この頃はあまり直接に牧師先生とお話しすることができなかったのですが、バンドのコンサートの時には必ず顔を出してくださり、見守つてくださつていたのを覚えています。そうして数年が経ち、社会人になって一年目の頃、私は雨の日の通勤途中にダンプカーにはねられると、大事故に遭いました。一時は生死の境をさまようような状態でしたが、牧師先生をはじめ、たくさんの兄弟姉妹の熱い祈りによつて奇跡的に助かり、その後も大きな後遺症などなく、事故からわずか二ヶ月後にはコンサートのステージに立てるほどに回復し、周囲の人々を驚かせた事を今でも記憶しています。

この頃から牧師先生は「紗子姉妹、賛美のプロ歌手にならないか?」と何度もお声掛けくださり、特に新潟方面の伝道旅行の折には数回に渡つて随行させてください、牧師先生のメッセージの前に特別賛美を捧げるという大切な奉仕に何度も与りました

した。教会で聞いた時の牧師先生はいかがかとい

うと、シャープで厳格なイメージが強かったのですが、伝道旅行の時に見せるお顔は少し違つていて、

地方の教会の様々な兄弟姉妹たちの話に温かくにじやかに、そして愛を持つてお應えになる姿は、まるで聖書の中に記されたごくイエス様の愛のお姿そのものでした。

日本と日本の教会を愛し、心からその復興とりバイバルを願つておられる熱い思いがありありと伝わって来るような、そんなひとときでした。残念ながら、様々な事情でプロ歌手になる道はその時は開かれませんでしたが、変わらず私の歌声を喜んでくださり、水曜祈祷会の挨拶の際には「賛美の賜物が豊かに祝福されますように…」とこつも熱く執り成し祈つてくださいました。

結婚・出産後には乳がんになつたり、またその他大きな病氣にいづつか罹患しましたが、その度に牧師先生は駆けつけくださいり、力強い癒しの祈りを魂を注いで捧げてくださいました。私の命は、牧師先生のあの熱い祈りがあつたからこそ、生かされていられる命なのだと知っています。

強引で、少しつがママで、でもこつもみんな時も私を信じて励ましてくださいり、導いてくださいました先生の愛に心から感謝します。二十九年間たっぷり仕込んでいただいた「手束マインド」をこつも胸に、これからもイエス様の背中を追いかけたいもたいと思います。



— 未来は見すとも “使命”生れぬ 姿 —

宮崎ハーベストチャーチ 高木 じゅあく

手束元老先生の訃報を受けた時、いっぽいお世話になり、心配ばかりかれていた私なので、せめて葬儀には行かせていただきたいと思い、宮崎から船に乗つて先生に会いに行きました。

先生のお顔を拝見した時には、不思議な感覚で言葉になります、むつりにはおられないことすぐ悟りました。「力」「厳しい」「頑固」「優しい」ところ印象の強い先生だけに、静かに眠つておられる先生の姿は、現実かな?とさえ思う程度でした。

若い頃素行の悪かつた私に、先生は怒るどころかセスなんだから、パソコンセスらしく足は閉じない」と気遣つてくださいました。

私が聖書学校を卒業して教会に戻つてきた時は、大胆にも伝道旅行に私を連れて行ってくださいました。先生は歩くのも早く、後ろに歩く私を気遣うこともなく「The 昭和の男」みたいな方だったのです、先生の奥様の美智子先生も大変やうなあくど私なりに考へ、「先生もアンドリュー先生の夫婦カウンセリング受けた方がいいんじゃないですか」と、

冗談交じりに言つたこともありました。そしたら「ふふふふ」と笑いながら鼻であしらわれました。先生の奥様の美智子先生も大変やうなあくど私なりに考へ、「先生もアンドリュー先生の夫婦カウンセリング受けた方がいいんじゃないですか」と感じました。

いみなに感謝の気持ちでいっぽいなのに、生前の先生に直接お伝えすることができなかつたのが悔やまれます、天国での再会をおから楽しみにしています!先生、本当にありがとうございました!

あかんや~」と、涙を溜めるかのように私をみつめて心配してくださつただけで、お祈りすらせずには帰されたことを思つ出します。偉大な先生なのに、父親のように血相をえて心配し、祈るじゅあくされなかつた先生。そんな、人間らしい先生の一面も思い出しました。



takasago church

2024年2月号

神の家族だより

～愛する人々を天に送り、私たちは地上でいよいよ喜んで仕えます号～



2/8シャロン会中筋こども園で奉仕



今年度も外部の奉仕によく用いられました。

ゴスペルカフェにも出演しました。→ →

2/11住之江恵泉教会へ宅配伝道



メッセージと
賛美と、
落語で笑いをお届け！



2/13キムチ作り教室



婦人会で澁谷姉から
キムチの作り方を
教わりました。

2/15愛する池内通雄兄を
天に送りました

司式は小嶋伝道師によって
奏楽は孫である高橋由名姉と
娘である高橋仁美姉によって
執り行われました。

ぬくもりあふれる
麗しいお葬儀でした。

2/15~21ミャンマー牧会訪問

混沌とした国内の情勢。
しかし主のご計画は止められることはあります！



ここに新しく建てられる教会は
「ヘーホーインマヌエルチャーチ」
アーメン！主は共におられます！

← 牧会者であるダンゴン先生と
奥様のために祈ります。



チャウンチャー村も
訪問でき、再会を
喜び合いました。

主の守りを
感謝します！

2/23神澤晏児伝道師と福井歩姉婚約式

歩姉の母教会である、南名古屋福音教会で
執り行われました。



7月13日の結婚式まで
良き備えが
なされますように。
お二人のために
祈りましょう！



高砂からもたくさん駆けつけました。

3月号も
お楽しみに！



神の家族だより・手束牧師天国への凱旋記念号

～最後まで走り抜いた手束先生、本当にありがとうございました！～



1/28 牧会50周年記念礼拝



2/11（日）前夜式



2/12（月）告別式





「手束正昭牧師召天記念礼拝」開催！

日時● 3月20日(水・祝)午後1時～

場所● 高砂教会 2階聖堂

メッセージ● 行澤一人牧師

(レハイムキリスト教会、日本民族総福音化運動協議会理事)

賛美ゲスト● 森祐理氏（福音歌手）

お問合わせ先●

日本キリスト教団 高砂教会

〒676-0015 兵庫県高砂市荒井町紙町1-34

TEL：(079)442-4854

※出席を希望される方は、右記のQRコードから申し込んで下さい。



ハーザー3月号裏面に掲載されました。